



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成30年4月27日

校長 福田 俊彦

「なすことによって学ぶ」が機能する時

校長 福田 俊彦

この学校通信を書いている今、廊下から子供の声が聞こえています。2年生が学校の施設の説明をしている声です。毎年行われる教育活動「学校探検」です。2年生が1年生を案内することを通して、新たな学年での役割を体験していることが伝わってきます。その声からは役割に本気で取り組んでいる2年生の意気込みを感じることができます。1年生を案内する時のことを描きながら、分かりやすい言葉で、はっきりとした話し方というように、相手を意識した案内の練習をしているようでした。

子供にとって、体験を通して感じたこと、考えたこと、判断し行動したことは、強く心に残るものでしょう。その積み重ねは、心への残り方をより強いものにしていくでしょう。そして、自分の生き方に根付いていくものと考えます。

遠足の一場面です。「公共の場所ではどのようなことに気を付け、どのような行動をするか。」3年生、4年生との遠足でのことです。他の人達も行き交う歩道の幅は決まっています。駅の階段の幅も決まっています。利用する電車の座席数は決まっています。山道では行き違うことが難しい程狭い所があります。昼食をとる公園には他の学校の児童もいます。そのような場で、どのような行動をしたらよいか、子供たちは分かっていました。そして、そのような行動を多々見ることができました。

歩道の半分を空けるように並んで歩く。階段の右側を歩き、左側を空ける。他の方々が乗車してきた時に座席を空ける。山道で行き交う方に「こんにちは。」と挨拶をする。公園で昼食をとりながらゴミを落とさないようにしている。風で飛んでいくビニール袋を拾いに行く。自分の物ではなくても拾って持ち主に届ける。分かっていることを、した方がよいことを行動に移せるのは、規範意識が高いこと、思いやりが身に付いていること、社会や集団との関わりを深められていることを示していると捉えます。

子供たちは、学校、家庭、地域での学びを、学校、家庭、地域の中で活用し、その活用したことを次の学びへと活かしていくのでしょうか。学びが学びを生じさせていく様を見ているようでした。遠足から帰ってきてから子供たちに伝えました。「これからが大事です。今日の遠足を振り返ることです。自分たちだけが道を歩いているわけではありません。自分たちだけが電車に乗っているわけではありません。自分たちだけが公園を使っているわけではありません。今日の遠足ではどのような行動をすることができたか、振り返ってみましょう。よかったは続けます。直さなければならないことはどのような行動にしたらいいか考えましょう。」

自分を振り返ることで「なすことによって学ぶ」の機能が始まるのです。